

ACEF (Asia Clean Energy Forum) 2019 及び、SEforALL 関連ワークショップに参加しました

【事業概要】

一般財団法人省エネルギーセンターは、経済産業省の委託を受けて、2019年6月、フィリピン・マニラにて開催された SEforALL 関連ワークショップ及び ACEF に参加しました。

(1) ADB/SEforALL 担当部門主催の ACEF/DDW (Deep Dive Workshop、テーマ深堀型ワークショップ) への参加

ECCJ は、電化率向上と CO2 削減の両立のためには、最新技術の導入、優秀事例の適用等により一層の省エネと再エネの導入が必要であることを述べるとともに、その一つの典型例として日本の北九州市によるスマートコミュニティの取組みを紹介しました。

(2) ACEF 出席

ACEF 会期中に実施されるイベントや自然発生的な小ミーティング等の機会を活用し、日本としての情報発信、広範囲の情報収集、人的ネットワークの維持拡大を図りました



ACEF 基調講演



ECCJ 田中 プレゼン



ADB Everywhere



Clean Energy Dim Sam



ADB CAREG チームと

(1) ACEF/DDW : 2 日間にわたり energy & livable cities, energy & water sustainability, energy and rural poverty, energy and innovation finance, clean energy trends and directions 等のテーマのもと開催されました。その中で、ECCJ は” Maximizing Demand-side Energy Efficiency to Accelerate National Electrification” を主題としたプレゼンを行いました。ミャンマー、バングラデシュ、ケニアを含む「電化率赤字国」(人口増加率>電化率の増加率)においては、対策として電化率を向上させつつその増エネ効果を相殺すべく一層の省エネ及び再エネの導入を行なう必要があることを述べました。都市全体の SDG7 (目標 7: すべての人々に手頃で信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する) 推進に向けた動きとして北九州市における「スマートコミュニティ」の導入事例を紹介、その中で省エネが依然として大きな役割を持つことを指摘しています。

(2) ACEF : ADB 融資案件の中では、中央アジア 5 か国において、再生可能エネルギー (主として太陽光) を統合運用するシステムが必要とされているとの発表がありました。小起業家による新技術では、小規模太陽光発電をミニグリッドシステムで統合するコンセプトが多く見受けられました。SEforALL において、ECCJ は引き続きエネルギー効率推進ハブとして、人的ネットワーク形成や、各種情報の統合的運用等により日本企業の裨益向上を目指して行きます。